

# 現行の富山県民文化計画の進捗状況

## 策定年次

平成30年3月策定

目標年次：令和8年度（計画期間：概ね10年）

## 目 標

富山から世界に、人と文化の輝く

「元気とやま」の創造

## 基本目標

### 文化活動への幅広い県民の参加

- (1) 県民が幅広く文化の鑑賞や新しい文化の創造を楽しみ、文化を通じた交流や文化活動に参加することを拡大していく。特に、次世代を担うこどもたちが、文化に親しむことを促進する。

### 質の高い文化の創造と世界への発信

- (2) 質の高い文化を創造し、世界に発信する。これにより、富山県の文化のレベルアップを図るとともに、県民の誇りとなる文化面での「とやまブランド」を確立する。

### 文化と他分野の連携

- (3) 文化は、まちづくりや経済活動など地域社会に幅広く関わってくるものであり、にぎわいづくり、産業振興、観光との連携など、社会の各分野で文化と連携して、総合的な文化振興に関する施策を展開する。

# 現行計画の施策体系



## 文化活動への幅広い 県民の参加

- 県立美術館等における企画展、普及事業
- こどもから大人まで一緒に楽しめるコンサートの開催
- 次世代を担うこどもたちを育成するための指導者招へい事業の実施
- 県立文化施設の機能強化推進

## 質の高い文化の創造と 世界への発信

- 国際演劇祭「シアター・オリンピックス」の開催  
(R1.8～9、来場者約2万人)
- 「観桜の集い」、「観月の集い」などふるさと文学の振興
- とやま世界こども舞台芸術祭の開催  
(R4.7～8、来場者約1万人)
- ユネスコ無形文化遺産など富山の文化遺産の魅力発信

## 文化と他分野の連携

- 立山博物館を中核とした文化観光拠点計画の認定
- 国際公募展「国際工芸アワードとやま」の開催  
(R3.2～4、来場者約8千人)
- 南砺市いなみ国際木彫刻キャンプの開催支援  
(R5.8～9、来場者約3万6千人)
- 地域の文化を活かしたまちづくり、賑わい創出への支援

## 文化活動への幅広い県民の参加

### 四館連携推進事業

本県が誇る個性豊かな富山県美術館・水墨美術館・立山博物館・高志の国文学館の四館が連携した企画展やイベント、広報PRを実施

- ①四館連携企画展「立山・黒部の魅力再発見！」の開催  
〔期日〕R6.6.7～6.30
- ②四館連携企画展 オープニングイベントの開催
- ③四館周遊スタンプラリーの実施
- ④四館PRポスターの制作・掲示
- ⑤四館PR動画制作

### とやまアーティストマッチング事業

県民が文化に触れる機会を拡充するとともに、県内芸術家の活動の場を確保するため、県民からの活動依頼に応じ、県内芸術家の派遣等を実施

- ①県民からの活動依頼の募集及び派遣調整
- ②アーティスト招へい経費への助成  
(補助率：1/2等、上限20万円)  
【R6年度補助実績：44件】



四館PRポスター



四館PR動画



企画展「立山・黒部の魅力再発見！」



アーティストマッチング出張公演



## 質の高い文化の創造と世界への発信

### 高志の国文学館10周年記念事業

高志の国文学館会館10周年を記念した事業に取り組み、ふるさと文学を発信

- ①特別講演会の開催  
〔期日〕 R4.9.11  
〔場所〕 富山国際会議場  
〔参加者〕 700名
- ②開館10周年記念シンボルマークの策定  
ピンバッジの制作・ミュージアムショップにおける販売  
(販売開始：R4.7.6)



高志の国文学館開館10周年記念特別講演会 (R4.9.11)

### 文化芸術創造拠点形成事業

劇団SCOT（主宰：鈴木忠志氏）が利賀に拠点を移して50年の節目を契機とする公演の開催や若手人材の育成を支援し、世界的な舞台芸術の拠点づくりを推進

- ①SCOT入村50年記念「SCOTサマー・シーズン2025」の開催
- ②国内外の演劇人を対象としたスズキ・トレーニング・メソッドなどの教育事業の実施
- ③国内外の若手演劇人と多国籍の俳優による共同作品の創造



SCOTサマー・シーズン

## 文化と他分野の連携

### 立山博物館を中核とした文化観光拠点計画の推進

国から認定を受けた計画に基づき立山エリアにおける文化観光を推進し、観光誘客と地域活性化を図るため、拠点施設である立山博物館の展示の磨き上げや情報発信を実施

- ①展示館2階の展示刷新  
(タッチパネル導入など解説展示の刷新、多言語対応の実施)
- ②高精細スキャンによる立山曼荼羅のデジタル化
- ③「日本三霊山」魅力発信のための特別企画展の実施  
〔期間〕R6.7.13～9.23 観覧者数4,938人
- ④立山黒部アルペンルートの山荘・ホテル等におけるサテライト展示の実施
- ⑤WEBサイト「オンライン立山博物館」の多言語化（英語）
- ⑥動画コンテンツの制作・放映



立山信仰用具  
(国指定重要有形民俗文化財)



英語版WEBサイト

### とやまの文化魅力発信・周遊促進事業

本県が誇る、有形・無形の文化財や特色ある美術館・博物館などを周遊するツアーの造成等を支援

- ①県の観光WEBサイトを通じたPR
- ②バスツアー（旅行商品）造成への助成  
(補助率：定額)  
〔R6年度補助実績〕5件
- ③文化歴史の魅力を体験・体感するツアー実施への助成  
(補助率：1/2)  
〔R6年度補助実績〕2件



県観光WEBサイト「とやま観光ナビ」



ツアーの様子

基本目標に対応した「県民参考指標」		現状 (R6)	目標値 (R8)
基本目標 1	芸術文化に親しむ機会が充足されていると思う人の割合	36.4%	50%
	県立文化ホールの利用率	59.0%	70%
	地域文化に係るボランティア活動者数	14,150人	14,150人
	県民が身近な場で親しむことのできるコンサートの実施数	91回	100回以上
基本目標 2	文化に関する国際交流事業	52件	63件
基本目標 3	総合デザインセンターの商品化支援件数（累計）	346件	315件



# 本県の文化芸術を取り巻く課題と今後の方向性

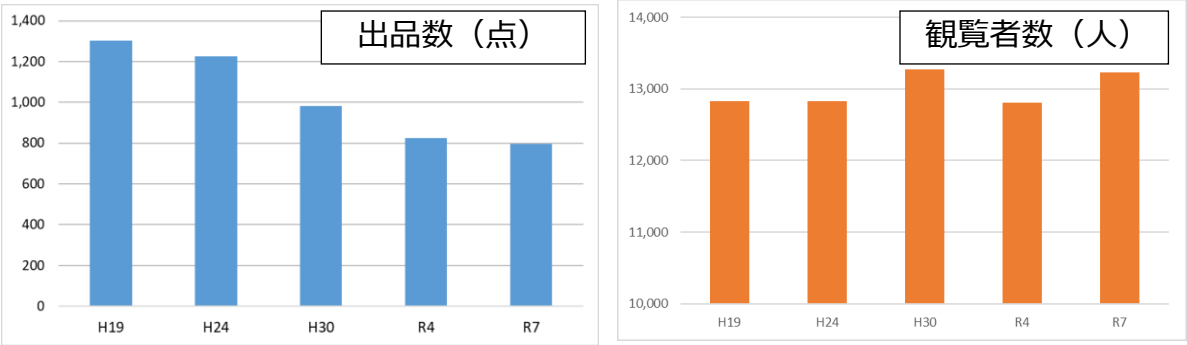
○これまで県では、現行計画に基づき文化芸術の振興に取り組んできましたが、主に以下の課題が生じています。

1. 多種多様な文化芸術の尊重

○毎年の恒例行事として定着している美術展や文化祭は、長く継続してきたことで事業内容が固定化し、近年では出品・出演者数、観覧者数の減少、担い手の高齢化の傾向が続いています。

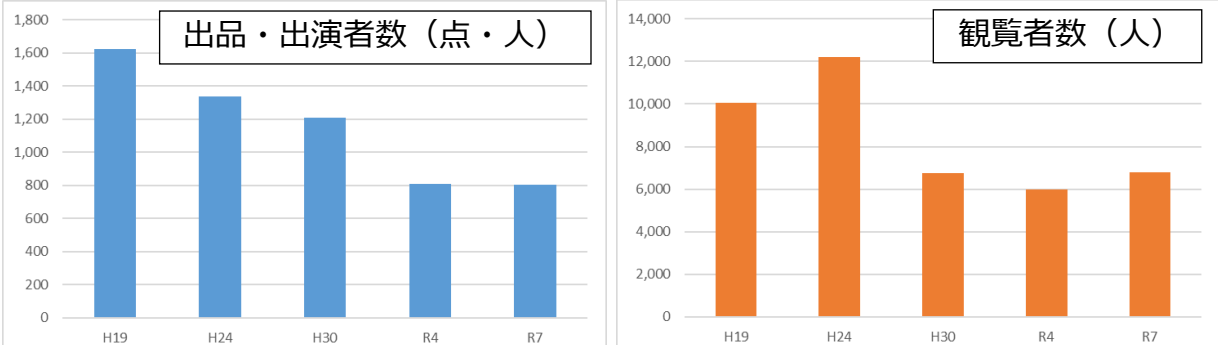
○歴史的な評価を受けている分野に限らず、時代の中で生まれた新しく多様な文化芸術も含め、県民の身近にある文化芸術を尊重し、県民誰もが参加者・表現者として関心をもち、楽しむことができる環境づくりが必要となってきました。

富山県美術展の出品数、観覧者数



年度	H19	H24	H30	R4	R7
一般出品数	1,303	1,225	981	826	795
観覧者数	12,831	12,834	13,275	12,805	13,225

県民芸術文化祭の出品・出演者数、観覧者数の推移



年度	H19	H24	H30	R4	R7
出品・出演者数	1,622	1,339	1,211	807	802
観覧者数	10,050	12,200	6,750	6,000	6,800

2. 県民ニーズへの対応

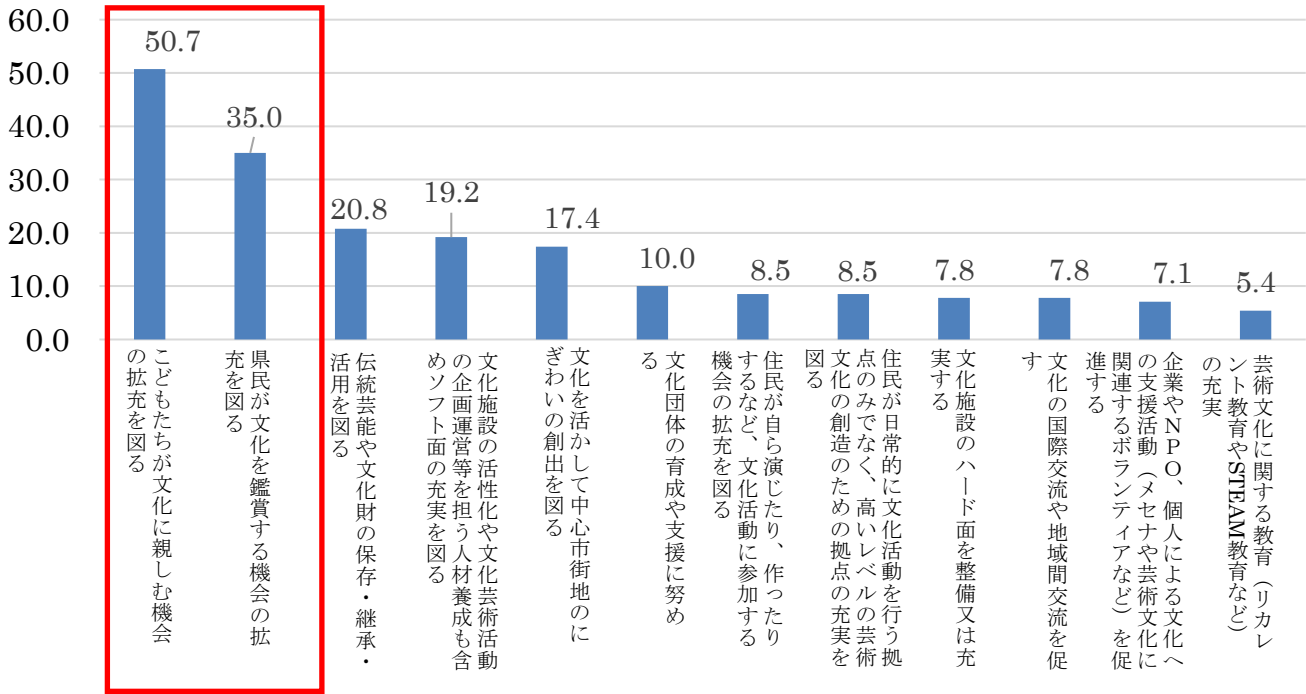
○こども・若者が文化芸術に触れ親しむ機会を充実させ、これからの文化芸術の担い手となるよう、取組みを行うことが必要となってきました。

○日常生活の中でいろいろな文化を鑑賞したり、自ら演じたり、作ったりすることが、「真の幸せ」（ウェルビーイング）の向上にとって大切だと思いますか。

区分	自ら	子どもたち
文化を鑑賞することは非常に大切、ある程度大切だと答えた人の割合(%)	71.2%	85.0%
演じたり、作ったりする文化活動は非常に大切、ある程度大切だと答えた人の割合(%)	37.5%	77.9%

資料：令和4年度文化に関する県民アンケート調査（富山県）

○文化の振興を通じて「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山」を創造するために県や市町村が重点を置くべき施策について（3つまで選択可）



資料：令和4年度文化に関する県民アンケート調査（富山県）

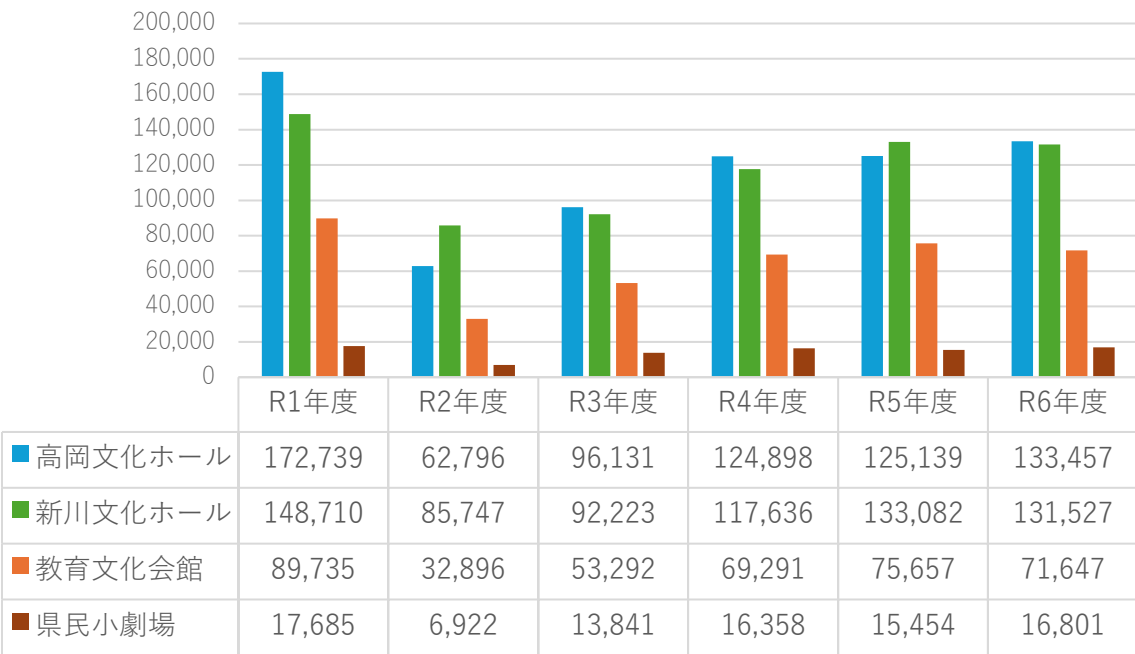
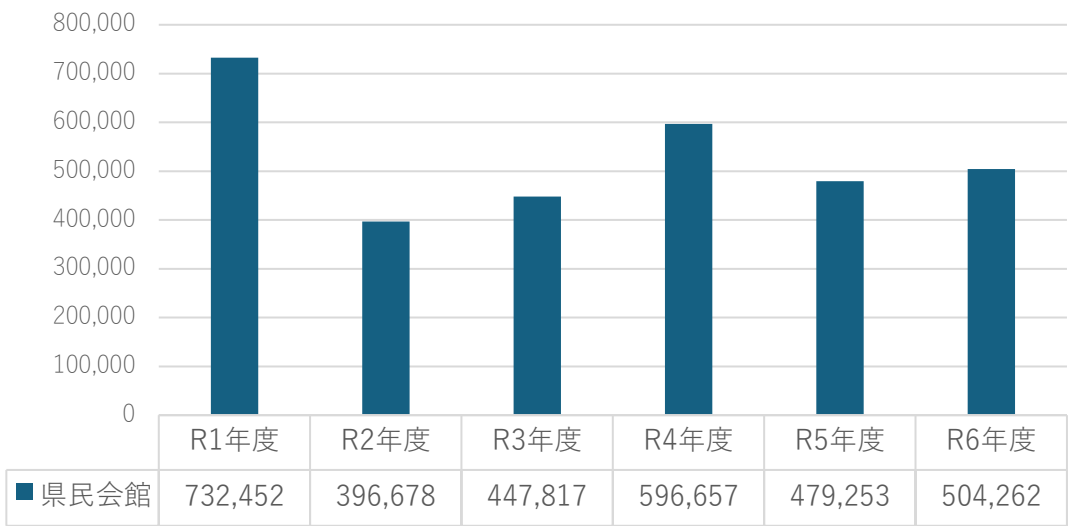
### 3. 文化施設の充実

- 富山県には、多くの特色ある美術館等の文化施設がありますが、来館者数はコロナ前の水準までには戻っておらず、**魅力ある展示、イベント等を充実**させ、さらに多くの人々に親しまれるとともに、優れた文化を創造、発信する施設として、活用を図っていく必要があります。
- 各地域の**文化資源を活かした地域活性化**を図り、その効果が再び文化の振興につながる好循環を創出することが必要となってきました。

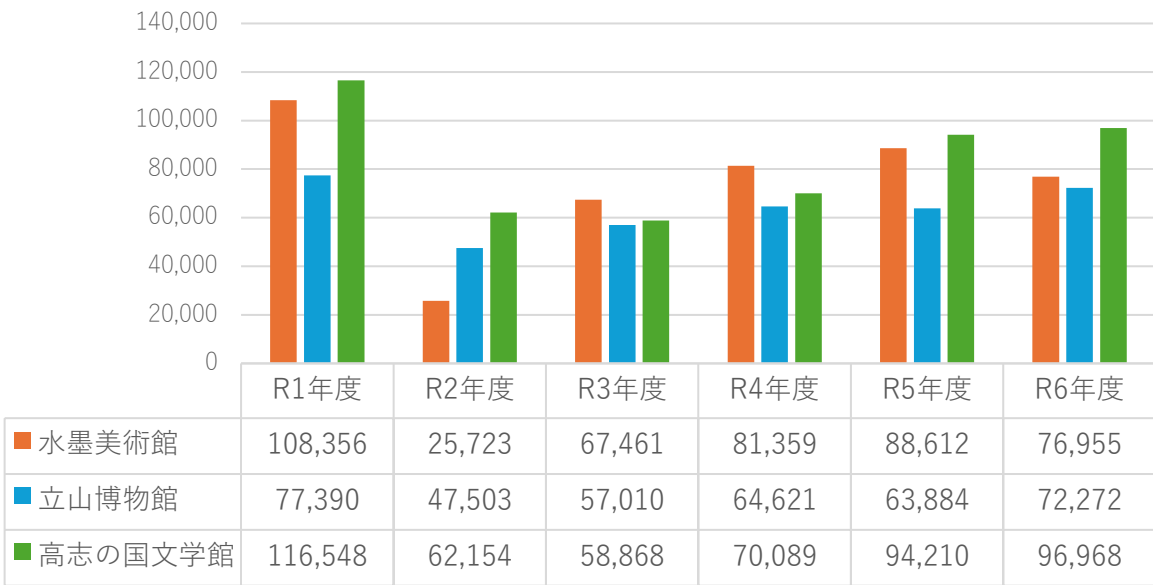
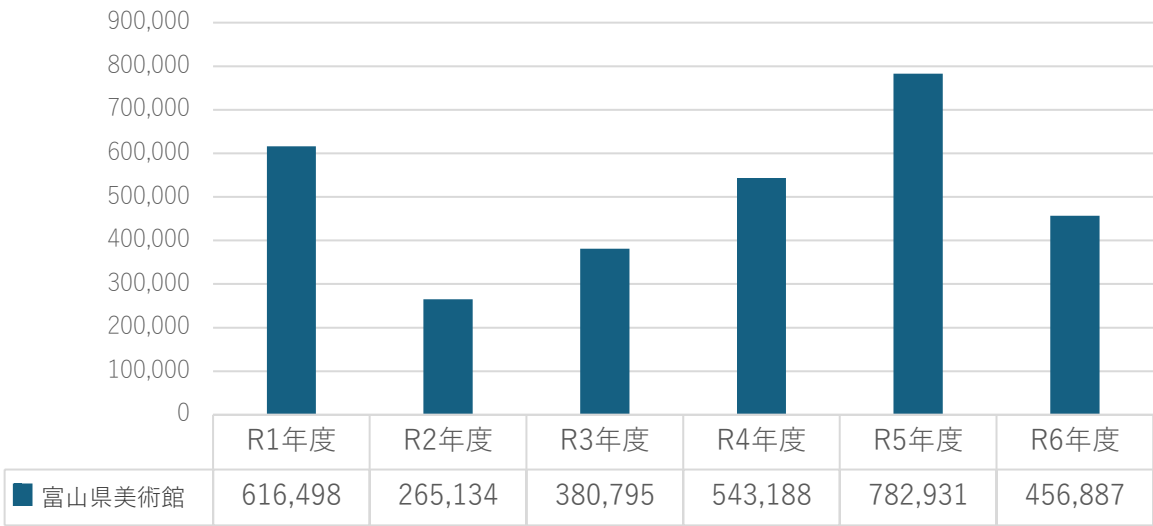


本県の文化芸術を取り巻く課題と今後の方向性④

県立文化ホール利用者数の推移（単位：人）



県立美術館等来館者数の推移（単位：人）



4. 伝統文化の保存・継承と発信

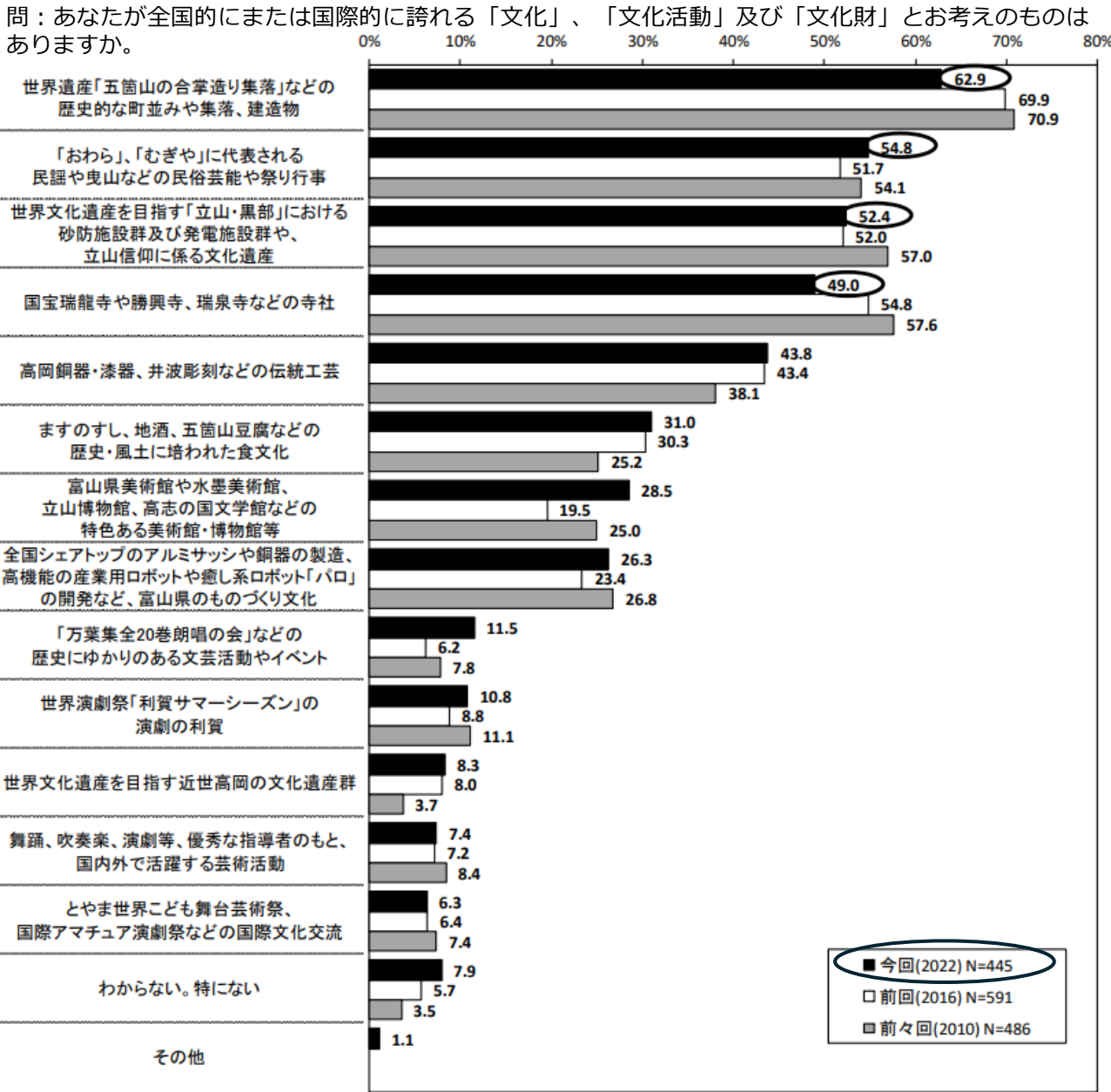
- 県政世論調査では「県内に自信を持って誇れるものがたくさんある」と思う県民の割合は低くなっています。
- 県民が郷土の文化や歴史に対する理解を深め、地域に愛着を持つ機会を充実させるとともに、**伝統文化の確実な保存・継承**と、その価値や魅力の情報発信の取組みが必要です。

令和7年度県政世論調査（速報値）

県内には、自然、歴史、文化、特産品など多くの魅力や地域資源がありますが、県外の知人、友人等に自信をもって紹介したり、奨めたりできるものがありますか。

たくさんある	少しはある	ない
21.1	67.5	6.7

(単位：%)



# 新たな富山県民文化計画の策定について

## 趣 旨

- 文化芸術を取り巻く社会情勢の変化や県民ニーズ等を踏まえ、新たな総合計画の「10年後の目指す姿」の実現に向けて、文化芸術施策の基本的な方向性を定める新たな富山県民文化計画を策定します。

## 目指す姿

- 「誰もが文化に親しみ、関わることにより、心の豊かさを実感しています。」  
(新たな総合計画の「10年後の目指す姿」より)

## 位置づけ

- 国の「文化芸術基本法」及び「富山県民文化条例」に基づき、文化芸術振興のために取り組むべき基本的な方向性を定めるもの。
- 新たな総合計画の分野別計画

## 計画期間

- 令和9年度から13年度までの5年間  
(現計画は令和8年度まで)



### 新たな富山県民文化計画のイメージ（案）

- 県民ニーズや時代の潮流に合わせた取組みについて重点的に記載
- 歴史的な評価を受けている分野に限らず、**県民に身近で幅広い分野の文化芸術にもスポットをあて、県民の文化芸術に対する関心を高め、心豊かになるような取組みについて検討**
- 新計画では文化芸術施策の**基本的な方向性を定めることとし、具体的な事業は、社会情勢の変化に柔軟に対応するため、毎年度の予算編成で示すことで、実効性を確保**
- 他の個別計画でも広義の文化を取り上げているため、具体的な施策等の記述は、当該計画に委ねる

#### ＜他の個別計画の例＞

- ・富山県教育振興基本計画（ふるさと教育）
- ・富山県景観条例・規則・景観づくり基本方針（景観づくり）
- ・とやま未来創生戦略（まちづくり）
- ・富山県食育推進計画（食文化）
- ・伝統工芸文化継承・産業振興プログラム（伝統産業）
- ・富山県ものづくり産業未来戦略（ものづくり産業の高付加価値化）

03 | 文化・スポーツ

政策の柱 1 未来に向けた人づくり

10年後の  
目指す姿

誰もが文化やスポーツに親しみ、関わることにより、心の豊かさや身体的な健康を  
実感しています。



美術や文学、音楽、演劇など、多彩な文化芸術に親しむ人が  
増えています。

県立美術館等の来館者について、1割以上の増加を目指します。

県立美術館等の来館者数	<現状> 703,082人	⇒	<目標> 80万人
-------------	------------------	---	--------------

ふるさとへの愛着と誇りを持つ人が増えています。

10年後には全ての県民が県内に自信をもって誇れるものがたくさんあると思っていることを  
目指し、5年後に80%を目指します。

県内に自信をもって誇れるものが たくさんあると思う人の割合	<現状> たくさんある 21.1%	⇒	<目標> 80%
	<参考>少しはある 67.5%		

それぞれの興味、関心、ライフステージ等に応じ、「する・  
みる・ささえる」を通じてスポーツに親しむ人が増えています。

成人のスポーツ実施率について、国の目標である70%を目指します。

成人のスポーツ実施率	<現状> 49.0%	⇒	<目標> 70%
------------	---------------	---	-------------

【課 題】

文化芸術の鑑賞機会や活動の場の充実が必要

- ・文化芸術に関心がない県民も多く、文化芸術活動の担い手の減少が懸念される

こどもをはじめ県民が郷土の文化や歴史に対する理解を  
深める機会の充実が必要

- ・郷土の伝統文化の次世代への継承と、文化資源を生かした地域づくりが必要

文化財の確実な保存とその価値や魅力の情報発信が必要

- ・地域の文化財を把握し、指定等により次世代に確実に保存継承するとともに、  
県民にその価値や魅力をアピールすることが必要

本県の成人の週1回以上のスポーツ実施率は全国平均以下

- ・近年は増加傾向（R4:38.8%→R6:49.0%）だが、全国平均（R6:52.5%）に届いていない  
ため、イベントやSNS等を通じたスポーツ情報の提供が必要

トップアスリートの育成・確保が必要

- ・選手の県外流出を防ぐために、アスリートの支援体制の充実が必要

県民がスポーツをみる・ささえる機会の充実が必要

- ・県内プロ・トップスポーツチームを応援する環境づくり、継続的なボランティア活動  
の機会づくりが必要

## 03 | 文化・スポーツ

政策の柱1 未来に向けた人づくり

### 【主要施策】

#### ■身近なところで文化芸術に親しむ機会の充実

- ・ 美術館、博物館や文化ホールなど県民に身近なところで、美術や文学、音楽、演劇など、多彩で質の高い文化芸術に親しむことのできる機会の充実を図ります。

#### ■こどもが文化芸術に触れ親しむ機会の拡充

- ・ 美術館、博物館でのワークショップや、学校等における文化芸術の鑑賞・体験機会の充実を図ります。



親子で楽しめるオーケストラコンサートの開催



富山県美術館でのワークショップ

#### ■文化芸術による地域活性化

- ・ 日本三霊山の一つに数えられる立山をはじめとした県内の豊かな文化資源の魅力発信や磨き上げにより文化観光を推進するなど、文化芸術を通じた関係人口の創出を図ります。
- ・ 市町村や文化団体による地域の文化芸術を活かした取り組みへの支援を通じて、地域の魅力の再発見と地域活性化を促進します。

#### ■地域に学び、伝統文化の保存・継承を図る取り組みの推進

- ・ 郷土に誇りと愛着を持ち、郷土を支える人材を育成するため、ふるさと富山の歴史や文化、自然等を学び親しむ機会の充実を図ります。
- ・ 地域資源の価値を高めて新しい魅力の創造につなげるため、郷土の文化財や遺跡をはじめとした伝統文化の保存と継承、発展を図ります。



県民カレッジによるふるさと学習講座



教算坊（旧宿坊）での立山曼荼羅の絵解き解説

#### ■世界文化遺産登録に向けた取り組みの推進

- ・ 「近世高岡の文化遺産群」や「立山砂防」の世界文化遺産登録に向け、資産の一層の充実・磨き上げや顕著な普遍的価値の特定・証明のための取り組みを推進します。



## 03 | 文化・スポーツ

政策の柱 1 未来に向けた人づくり

### 〔主要施策〕

#### ■ 部活動の地域展開の推進

- 市町村が取り組む部活動の地域展開を支援し、生徒がスポーツや文化芸術に親しむ機会の充実を図ります。



部活動の地域展開

#### ■ 文化芸術とスポーツを通じた生きがいづくり

- 豊かで潤いのある生活をもたらし、自己実現の契機となる文化芸術活動を推進し、高齢者や障害者の文化芸術活動を通じた心豊かな生活を支援します。
- 健康の保持増進や生きがいづくりを促進するため、高齢者や障害者がスポーツ活動に親しむことができる環境づくりを推進します。



高齢者の文化活動（ギタークラブ）



障害者のスポーツ大会

#### ■ 日常生活の中で運動やスポーツに親しむ機会の充実

- ライフステージに応じて、気軽にスポーツの楽しさや面白さを味わうことができるよう、スポーツを「する・みる・ささえる」機会の充実を図ります。
- スポーツ施設の設備の整備や機能の充実を図ります。



県民歩こう運動推進大会



Enjoy! スポーツとやま

#### ■ トップアスリートと指導者の育成

- 小学生からトップアスリートに至るまで、競技力の向上を図るための取り組みを積極的に展開し、アスリートの育成・強化を推進します。
- 継続してスポーツに打ち込める環境を整備し、優秀な選手・指導者の育成・確保を図ります。



（１）身近なところで文化芸術に親しむ機会の充実

- ①暮らしの中にある文化芸術の普及・啓発
- ②誰もが質の高い文化芸術に触れる機会の提供
- ③誰もが文化芸術に親しみ、誰もが表現者となれる機運の醸成
- ④文化芸術活動の持続的発展の推進

（２）こどもが文化芸術に触れ親しむ機会の拡充

- ①鑑賞する機会の充実
- ②体験・発表する機会の充実

（３）文化観光の推進等による地域活性化

- ①本県の豊かな文化資源の磨き上げによる文化観光の推進
- ②地域の魅力の再発見と地域活性化の促進
- ③伝統文化の保存・継承の推進

（１）身近なところで文化芸術に親しむ機会の充実について

①暮らしの中にある文化芸術の普及・啓発

- ・県民の文化芸術への関心を高める取組み（歴史的な評価を受けている分野だけでなく、時代の中で生まれたダンスやポップスなど新しく幅広い分野も含めた文化芸術の普及・啓発など）
- ・郷土に誇りと愛着を持ち、郷土を支える人材を育成するための取組み（ふるさと富山の歴史や文化、自然等を学び親しむ機会の充実など）

②誰もが質の高い文化芸術に触れる機会の提供

- ・美術館、博物館や文化ホールなど県民に身近なところで、美術や文学、音楽、演劇など、多彩で質の高い文化芸術に親しむことのできる取組み
- ・利賀に拠点を置く劇団SCOT（主宰：鈴木忠志氏）による世界一流の舞台公演など富山を舞台とした特色ある文化芸術を振興するための取組み
- ・文化芸術活動の拠点となる文化施設が、より親しまれるようになるための取組み（利用環境の整備や多面的な活用の推進など）

### ③誰もが文化芸術に親しみ、誰もが表現者となれる機運の醸成

- ・県民誰もが文化芸術に触れ、活動できるための取組み（性別、年齢、障害の有無や国籍等にかかわらず文化芸術に親しむ機会の充実など）
- ・誰もが身近なところで気軽に文化芸術に親しむための取組み（文化施設以外でも文化芸術に触れることができる機会の提供など）

### ④文化芸術活動の持続的発展の推進

- ・文化芸術の担い手が充実した活動を継続するための取組み（文化芸術活動への支援、官民協働による文化芸術活動の推進など）
- ・文化芸術活動を発展、活性化させるための取組み（文化芸術の担い手となる人材や、企画・運営など支え手となる人材の育成など）
- ・文化芸術活動の情報発信（デジタル技術の活用など）

## (2) こどもが文化芸術に触れ親しむ機会の拡充について

### ①鑑賞する機会の充実

- ・こどもたちが質の高い文化芸術に触れるための取組み（県立美術館等における多彩で魅力的な企画展等の開催など）
- ・こどもたちが身近な場所で質の高い音楽を鑑賞するための取組み（親子で楽しめるコンサートや学校等でのコンサートなど）

### ②体験・発表する機会の充実

- ・こどもから大人まで、世代を超えて一堂に参加して創作・発表する機会の創出について
- ・こどもたちの文化活動への支援について（学校や幼稚園・保育所等での公演、指導など）



### （３）文化観光の推進等による地域活性化について

#### ①本県の豊かな文化資源の磨き上げによる文化観光の推進

- ・文化芸術を通じて関係人口を創出するための取組み（日本三霊山の一つに数えられる立山をはじめ、**県内の豊かな文化資源の磨き上げによる文化観光の推進**など）
- ・国内外からの観光客が**本県の文化について理解を深める**ための取組み

#### ②地域の魅力の再発見と地域活性化の促進

- ・県民や国内外から訪れる方にも本県の魅力を感じてもらうための取組み（**県内各地で行われる特色ある文化芸術活動の支援**、魅力の発信など）
- ・**文化芸術と他分野との連携**により、地域の活性化を図るための取組み

#### ③伝統文化の保存・継承の推進

- ・文化財を確実に次世代へ継承するための取組み（**国・県指定文化財の保存修理や後継者育成の支援**など）
- ・文化財の公開活用を促進するための取組み（**美装化や防災対策の支援**など）
- ・**「近世高岡の文化遺産群」及び「立山砂防」の世界文化遺産登録に向けた活動支援**について

5年後の姿（成果目標）

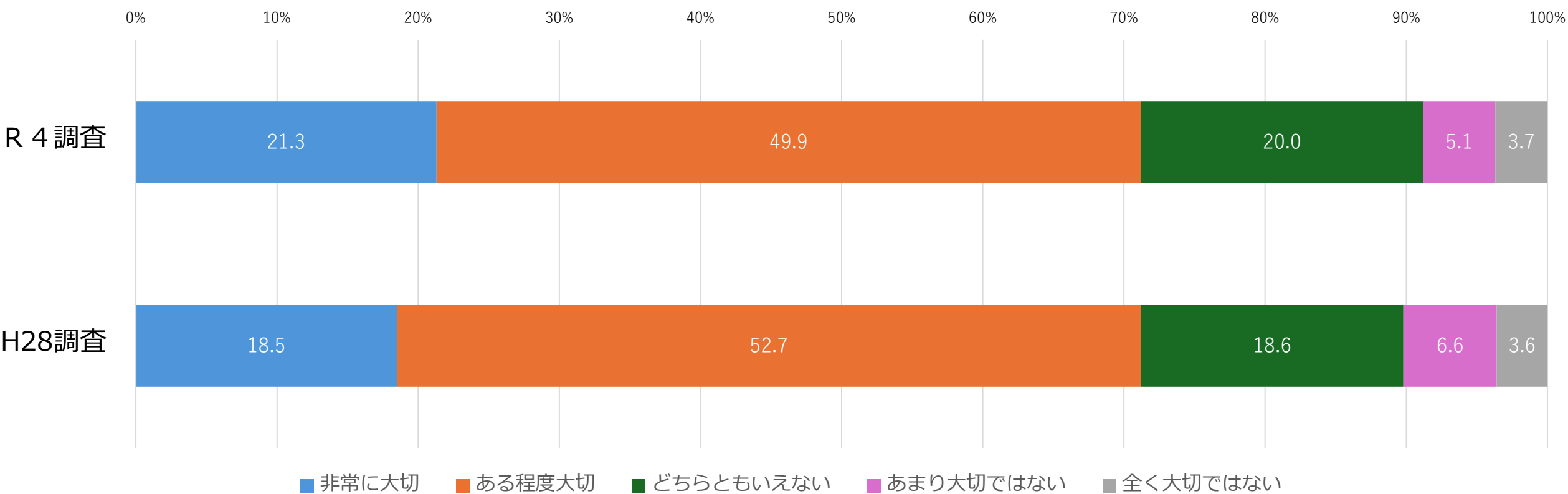
	指標名	現状	目標値 (R13)
柱1,3	県立美術館等の来館者数	703,082人 (R 6)	80万人以上
柱1,2	文化芸術を鑑賞した県民の割合 (オンラインでの鑑賞を含む)	(アンケート実施)	(増加を目指す)
	文化芸術活動をした県民の割合 (オンラインでの活動を含む)	(アンケート実施)	(増加を目指す)
柱3	県内に文化や歴史など自信をもっ て誇れるものがたくさんあると思 う人の割合	たくさんある 21.1% <参考> 少しはある 67.5% (R 7)	80%以上

年度	時期		主な内容
R 7	12月16日	第 1 回審議会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画策定の諮問</li><li>・ 計画策定の基本的考え方を説明</li><li>・ 事務局案、県民アンケート項目（別添）の審議</li></ul>
		調査の実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県民や県内芸術団体等へアンケート</li></ul>
	3月頃	第 2 回審議会 （骨子案）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ アンケート調査結果、高校生とやま県議会の報告</li><li>・ 「骨子案」（第 1 回会議での意見及びアンケート等の結果を踏まえた案）の提示、審議</li></ul>
R 8	7月頃	第 3 回審議会 （中間案）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「中間案」（第 2 回会議での意見を踏まえた修正版）の提示、審議</li></ul>
	10月頃	第 4 回審議会 （素案）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「素案」（第 3 回会議での意見を踏まえた修正版）の提示、審議</li></ul> ⇒パブリックコメントを実施
		パブリックコメント	
	11月頃	第 5 回審議会 （答申案）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ パブリックコメントの結果を踏まえた「答申案」の提示、審議</li></ul>

# 参考資料

日常生活の中でいろいろな文化を鑑賞したり、自ら演じたり、作ったりすることが、自分の「真の幸せ」（ウェルビーイング）の向上にとって大切だと思いますか。

【自分が文化を鑑賞すること】について



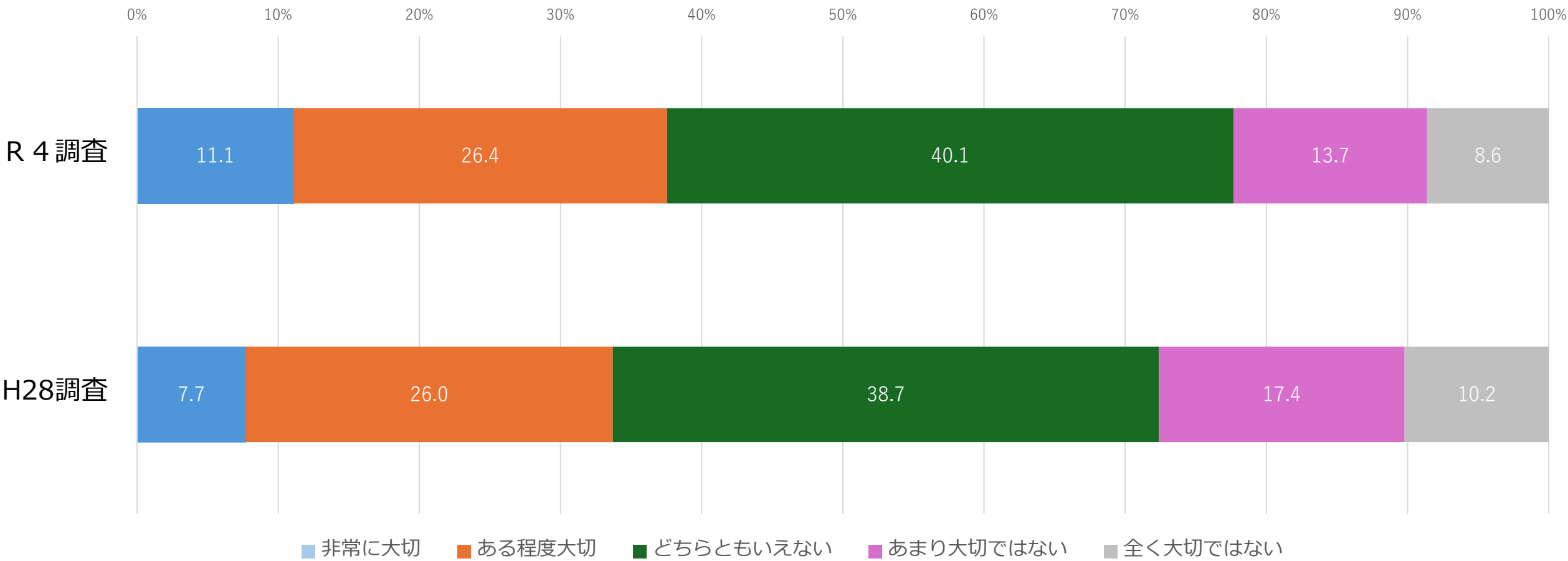
○「非常に大切」と回答された方の割合は前回調査から増加

○R4、H28ともに7割以上の県民が「鑑賞することは大切である」と回答



日常生活の中でいろいろな文化を鑑賞したり、自ら演じたり、作ったりすることが、自分の「真の幸せ」（ウェルビーイング）の向上にとって大切だと思いますか。

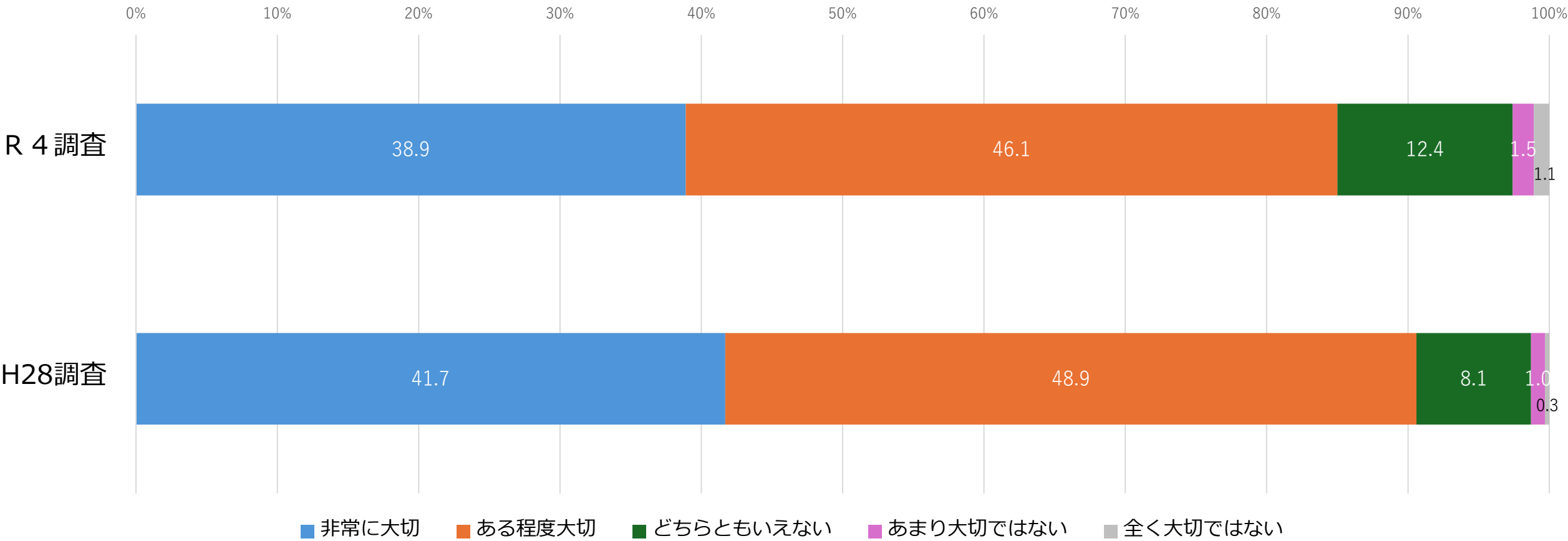
【自分が自ら演じたり、作ったりすること】について



○ 「非常に大切」と回答された方の割合は前回調査から増加

子どもたちにとって、文化を鑑賞したり、自ら演じたり、作ったりすることが、大切だと思いますか。

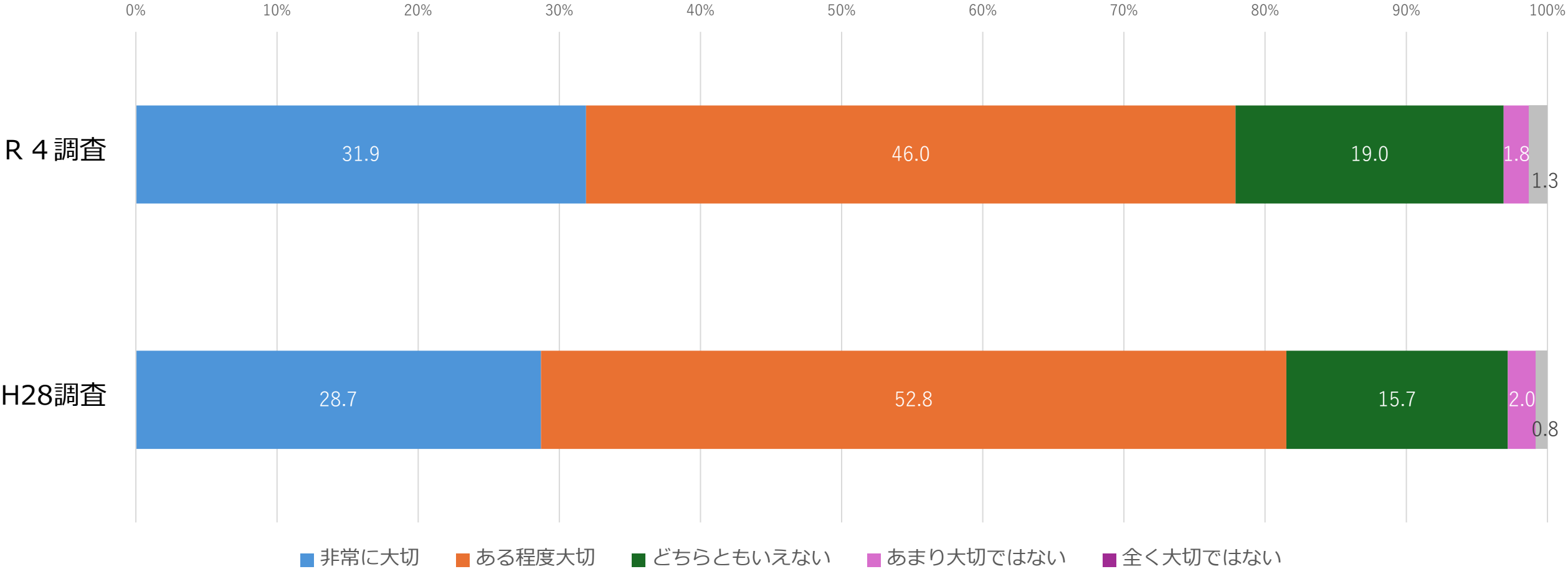
【子どもたちが文化を鑑賞すること】について



○「非常に大切」、「ある程度大切」と回答された方の割合は8割以上

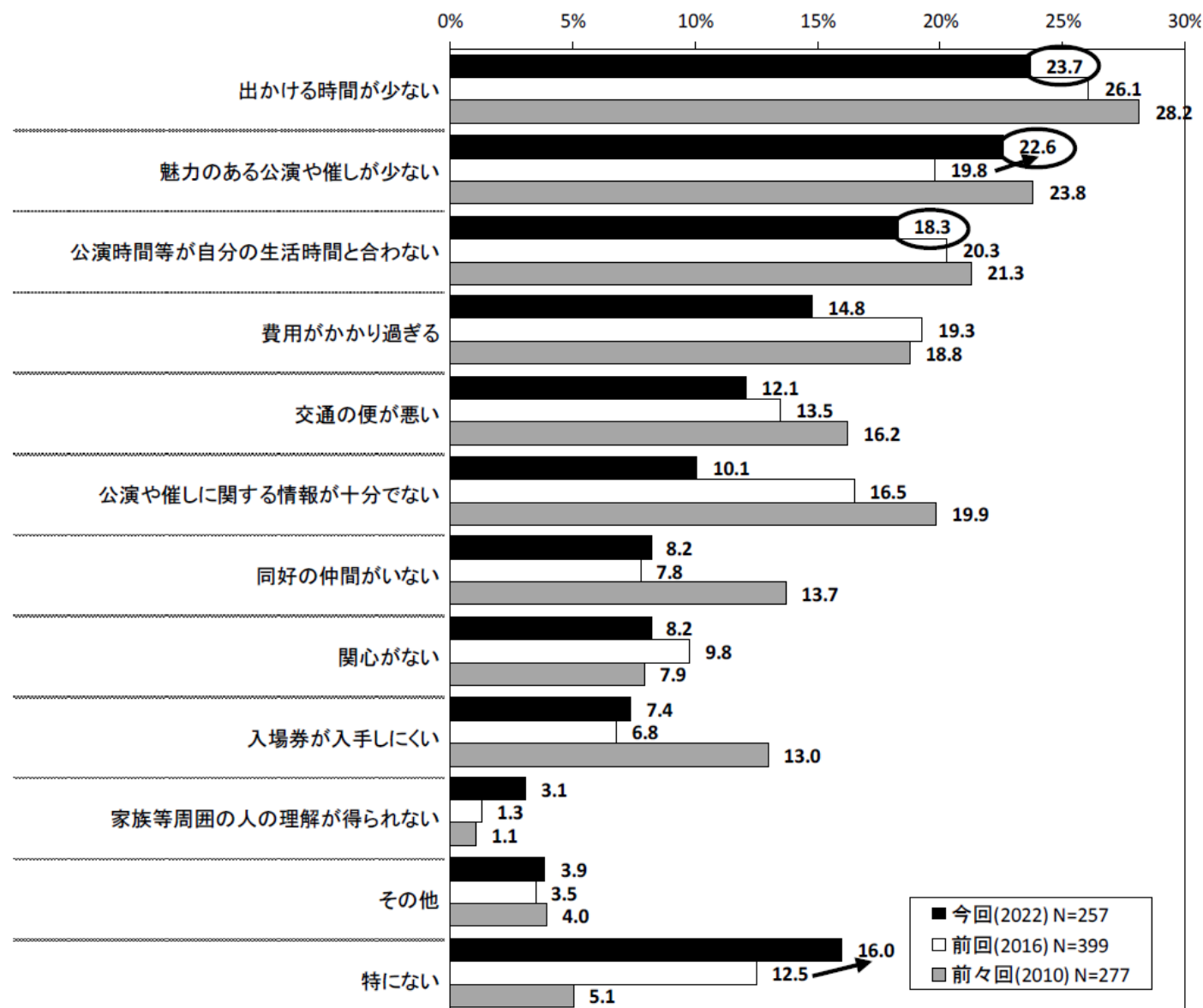
子どもたちにとって、文化を鑑賞したり、自ら演じたり、作ったりすることが、大切だと思いますか。

【子どもたちが自ら演じたり、作ったりすること】について

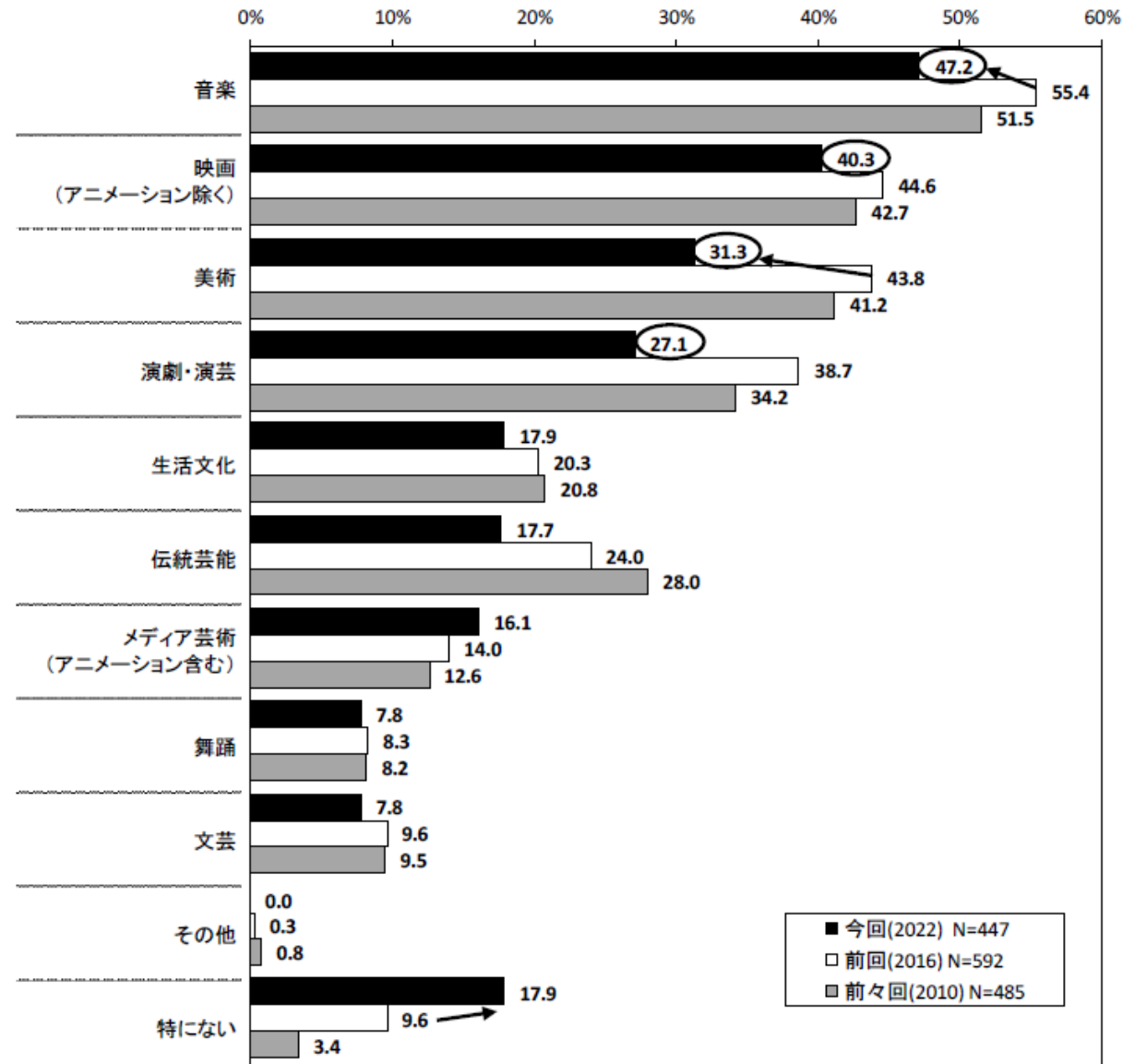


○ 「非常に大切」、「ある程度大切」と回答された方の割合は約 8 割

# 文化を鑑賞する上で支障となっていること（2つまで選択可）

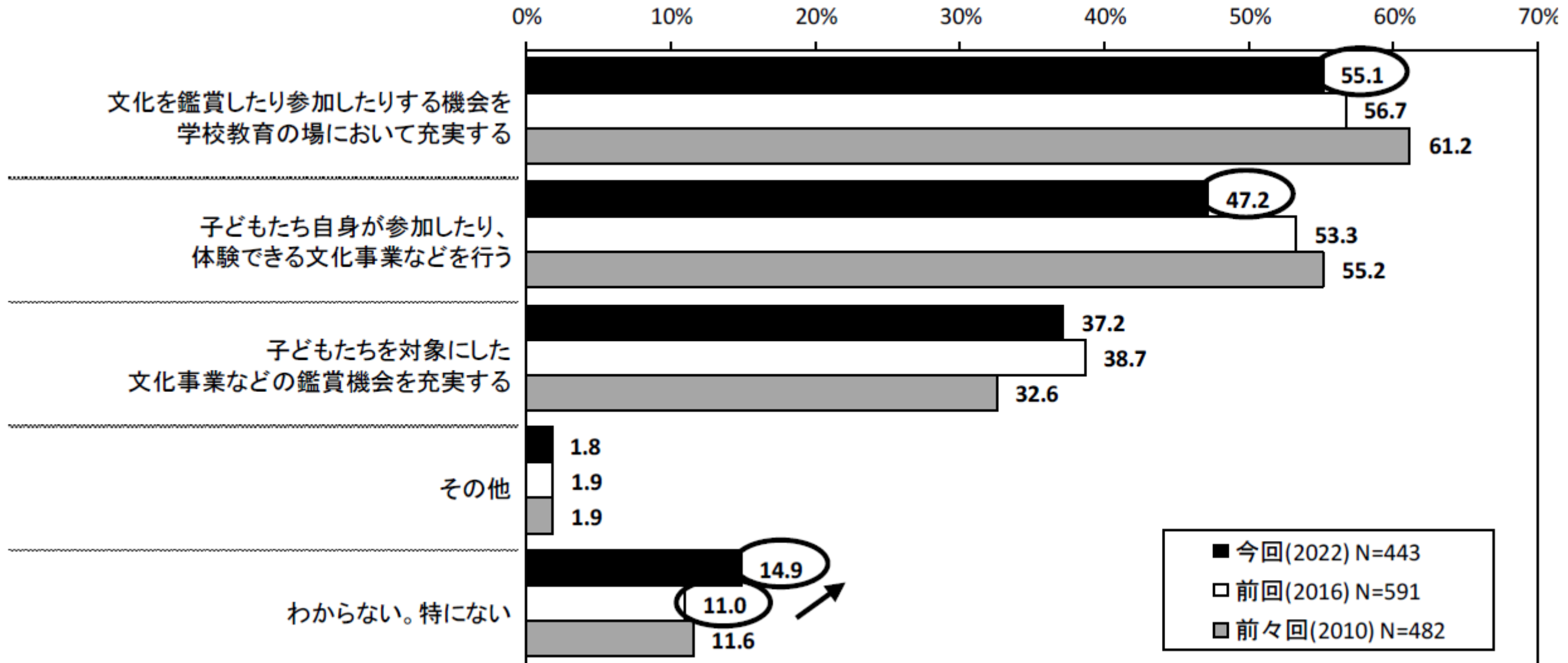


# 今後もっと鑑賞したい分野（いくつでも選択可）

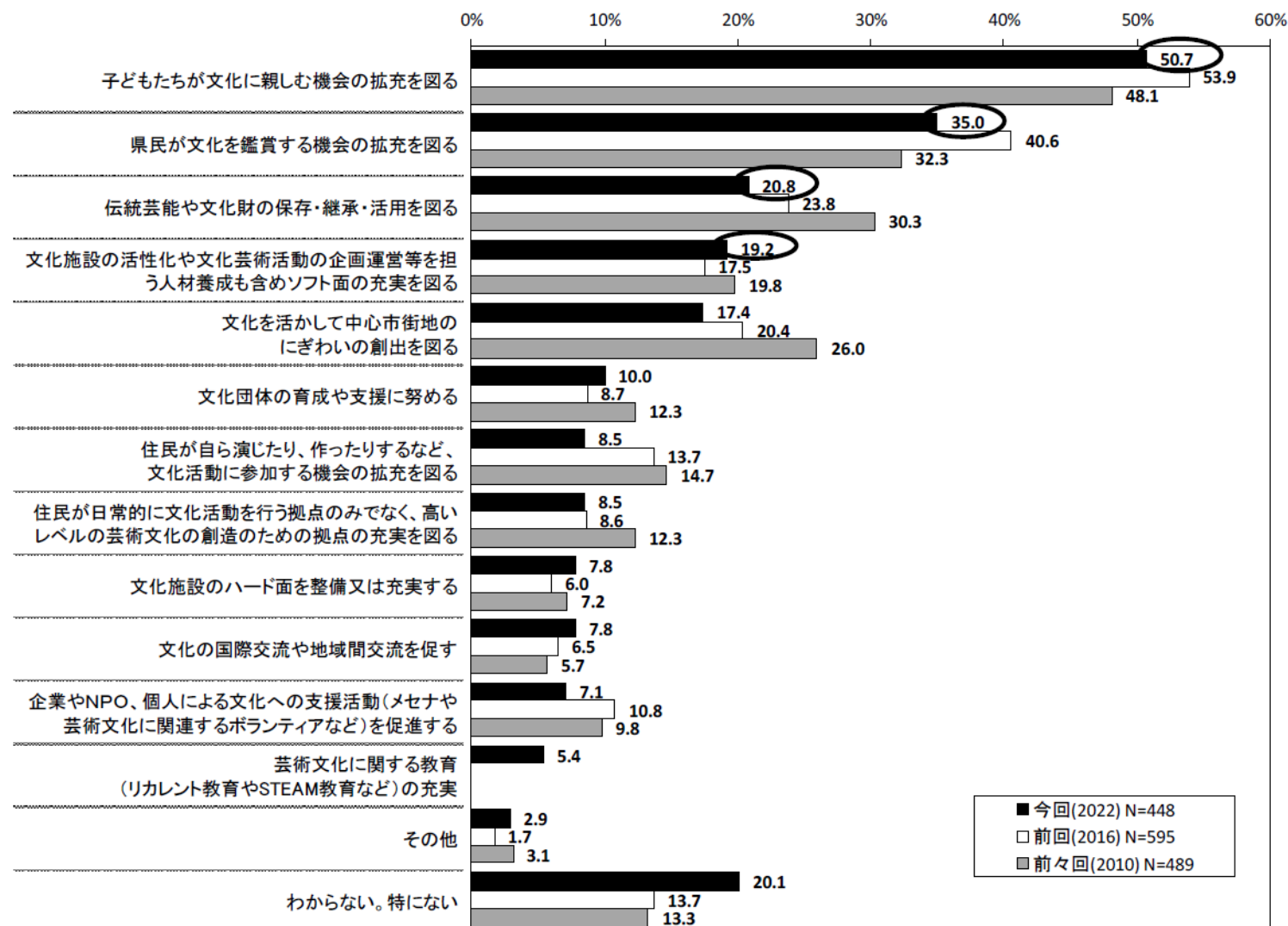




子どもたちが文化に親しむ機会を充実するため、県や市町村はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（2つまで選択可）



文化の振興を通じて「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山」を創造するために、県や市町村が重点を置くべき施策について（3つまで選択可）



# 【参考資料 2】 富山県民文化条例

○富山県民文化条例（平成 8 富山県条例第36号）

## 第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 この条例は、文化の振興について、基本理念を定め、及び県の責務を明らかにするとともに、文化の振興に関する施策の基本となる事項を定めることにより、文化の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もってゆとりと豊かさが実感できる県民生活の形成に資することを目的とする。

（基本理念）

第 2 条 文化の振興は、県民の文化活動を通じた心の豊かさの追求が支援されること及び地域文化の創造活動が促進されること並びにこれらを通じて活力ある地域社会が形成されることによって、文化の香り高いふるさと富山が創造されることを旨として、県民とともに行われるものとする。

2 文化の振興に当たっては、文化の担い手が一人一人の県民であることにかんがみ、県民の自由な文化活動が尊重されなければならない。

3 地域の文化遺産は、県民が誇りを持つことができる共通の財産として将来の世代に引き継がれるものとする。

4 国際文化交流は、それが国際相互理解及び文化の発展に資することにかんがみ、積極的に推進されるものとする。

（県の責務）

第 3 条 県は、前条に定める文化の振興についての基本理念にのっとり、文化の振興に関する施策（以下「文化振興施策」という。）の体系を明らかにし、及び文化振興施策を総合的かつ計画的に実施するものとする。

2 県は、県が行う施策に文化の視点を取り入れるように努めるものとする。

（市町村との関係）

第 4 条 県は、文化振興施策の推進に当たっては、市町村との連携に努めるとともに、市町村が行う文化振興施策について、市町村相互の連携が図られるように努めるものとする。

（国及び他の都道府県との関係）

第 5 条 県は、国及び他の都道府県との連携及び協力により、文化振興施策の効果的な推進に努めるものとする。

（民間団体等との関係）

第 6 条 県は、文化振興施策の推進に当たっては、国又は地方公共団体以外のもの（以下「民間団体等」という。）の自主的な文化活動に十分配慮しつつ、民間団体等の協力を得るように努めるものとする。

## 【参考資料 2】 富山県民文化条例

### 第 2 章 文化振興施策

#### 第 1 節 文化振興施策に係る基本方針等

（施策の策定及び実施に係る基本方針）

第 7 条 県は、文化振興施策を策定し、及び実施するに当たっては、県民の自主性及び創造性が発揮されるよう十分配慮しつつ、県民が文化に親しみ、文化を生活に生かし、及び文化を創造することができるような諸条件の整備に努めるものとする。

（県民文化計画の策定）

第 8 条 県は、文化振興施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、富山県民文化計画（以下「県民文化計画」という。）を定めるものとする。

2 県民文化計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

(1) 総合的な文化振興施策の大綱

(2) 前号に掲げるもののほか、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 県は、県民文化計画を定めようとするときは、あらかじめ、富山県文化審議会の意見を聴かなければならない。

4 県は、県民文化計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

5 前 2 項の規定は、県民文化計画の変更について準用する。

#### 第 2 節 文化の振興及び文化活動の条件の整備

（芸術文化の振興）

第 9 条 県は、創造的な芸術活動の促進、芸術文化に接する機会の提供その他の芸術文化を振興するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（伝統文化の振興）

第 10 条 県は、先人から受け継がれてきた文化財その他の伝統文化が、将来にわたって適切に保存及び継承され、並びに文化の創造のために活用されるようにすることその他の伝統文化を振興するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（生活文化等の振興）

第 11 条 県は、日常生活に喜びやうるおいを与える文化活動の促進、地域の特色ある生活様式の奨励その他のいのちとくらしに関する生活文化等を振興するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（国際文化交流及び環日本海文化交流の推進）

第 12 条 県は、県民の文化活動が促進され、及び世界に向けて富山県の地域文化が発信されるよう、国際文化交流を推進するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

2 県は、富山県の地理的条件等にかんがみ、県民と日本海周辺地域の人々との相互の理解が深まるよう、当該地域との文化交流を推進するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

## 【参考資料 2】 富山県民文化条例

（文化活動の担い手の育成）

第13条 県は、文化活動の機会を提供すること等により、県民が文化に親しみ、文化についての理解と関心を深め、及び文化創造の意欲を高めることができるように努めるものとする。

2 県は、県民の文化活動の充実に資するため、文化活動を担う人材及び団体の育成に努めるものとする。

3 県は、青少年の文化に関する学習の機会を充実すること等により、次代の文化の担い手となる青少年が豊かな人間性を形成し、及び創造性をはぐくむことができるように努めるものとする。

（文化活動の場の整備）

第14条 県は、県民が創作し、発表し、及び鑑賞する場となる文化施設その他の文化活動の場の整備に努めるものとする。

2 県は、文化遺産が県民の文化活動の場として活用されるように努めるものとする。

（文化交流の促進及び連携）

第15条 県は、文化交流に資する行事その他の多様な文化交流の機会を提供することにより、県民の文化交流の促進に努めるものとする。

2 県は、文化交流を通じた地域文化の創造に資するため、文化活動を行う個人及び団体の相互の連携が図られるように努めるものとする。

（文化交流を支える条件の整備）

第16条 県は、国際文化交流その他の文化交流の促進に資するため、文化交流を支える人材及び施設の確保その他の文化交流を支える条件の整備に努めるものとする。

（文化性の導入等）

第17条 県は、個性豊かな地域文化の形成に資するため、うるおいと安らぎのある文化的な生活環境の整備に努めるものとする。

2 県は、県が設置する施設について、地域の景観との調和に配慮されたものとする等文化性の導入（次項において単に「文化性の導入」という。）に努めるものとする。

3 県は、市町村又は民間団体等が設置する施設について文化性の導入が図られるよう、理解と協力を得るように努めるものとする。

（情報の収集及び提供）

第18条 県は、県民の文化活動の促進及び地域文化の形成に資するため、文化に関する情報を収集し、及び提供するように努めるものとする。

（文化に関する産業の振興等）

第19条 県は、県民の文化活動の促進に資する文化に関する産業の振興に努めるとともに、地域産業による地域文化を形成する活動の奨励に努めるものとする。



### 第3節 財政措置等

（財政上の措置）

第20条 県は、文化振興施策を実施するため、必要な基金の設置その他の財政上の措置を講ずるように努めるものとする。

（市町村及び民間団体等に対する援助）

第21条 県は、市町村が行う文化振興施策に関し必要な助言、助成その他の援助を行うことができる。

2 県は、民間団体等が行う文化活動に関し必要な助成その他の援助を行うことができる。

（調査研究）

第22条 県は、文化振興施策の推進に資するため、文化の振興に関する調査研究に努めるものとする。

（顕彰）

第23条 県は、文化の振興に関し功績のあった者又は優良な事例の顕彰に努めるとともに、市町村又は民間団体等による顕彰が促進されるように努めるものとする。

### 第3章 富山県文化審議会

（設置及び所掌事務）

第24条 知事の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議するため、富山県文化審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(1) 文化の振興に関する基本的事項及びこの条例の規定によりその権限に属せられた事項

(2) 前号に掲げるもののほか、文化の振興に関し必要な事項

（組織等）

第25条 審議会は、委員30人以内で組織する。

2 委員は、学識経験のある者のうちから、知事が任命する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

5 前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

# 【参考資料 3】 富山県文化審議会規則

○富山県文化審議会規則（平成 9 富山県規則第 3 号）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、富山県民文化条例（平成 8 年富山県条例第 36 号）第 25 条第 5 項の規定に基づき、富山県文化審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（会長）

第 2 条 審議会に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第 3 条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（顧問）

第 4 条 審議会に、必要な意見を聴くため、顧問を置くことができる。

2 顧問は、知事が任命する。

（専門委員）

第 5 条 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、学識経験のある者のうちから、知事が任命する。

（部会）

第 6 条 審議会に、特定の事項を調査審議させるため、部会を置くことができる。

2 部会の設置、組織及び調査審議すべき事項は、会長が審議会に諮って定める。

（庶務）

第 7 条 審議会の庶務は、生活環境文化部文化振興室において処理する。

（細則）

第 8 条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。